

# 平成26年度 事務事業マネジメントシート

事業名	小学校英語活動推進事業			会計	款	項目	大	小
				01	10	01	04	02
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実に向上）	主管課	指導課			
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	濱崎 祐子			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内小学校全児童	意図	国際理解教育の推進を図り、子どもたちに外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を身につけさせる。
事業内容	日本人の小学校英語活動指導員を各小学校に1名ずつ配置。5・6年生の外国語活動の授業を進める上での準備段階から授業の実施まで学級担任の補助を行う。 ネイティブの英語指導員スーパーバイザーを3名雇用。一人あたり5校を担当し、学校規模に応じて、学期ごとに一定期間訪問し、外国語活動の指導及び教員の研修にあたる。			
事業開始から現在までの状況変化	日本人の英語活動指導員の配置は平成16年度から始まり、平成18年度からは市内全15校への配置が実現している。 スーパーバイザーは平成20年度に初めて1名が採用され、22年度には2名に、23年度には3名に増員した。平成26年度も3名体制を維持する。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	英語活動指導員一人あたりの指導時間の合計	4,054	4,333	4,627	時間
②	スーパーバイザー指導日数	173	173	223	日	↑↑↑	一人あたりの指導日数の合計
③							
④							
指標で表すことができない定性的な成果	スーパーバイザーの指導時間が増加することで、良質なインプットの機会が増え、英語や外国の文化への興味関心をさらに高めることができた。						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 英語活動指導員の勤務には、現在1日4時間という規定があり、一学年4学級ある学校では、授業の打ち合わせを持ってない現状がある。また、市内小学校15校に対して、外国語指導助手は3名である。今後は英語活動指導員の勤務態勢の整備と外国語指導助手の人員増を目指し、児童が英語に触れる機会を増やしていきたい。
事務事業のコスト	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)	17,018,512	17,597,373	18,314,000				
事業費(b)(円)	17,018,512	17,597,373	18,314,000				
うち一般財源	17,018,512	17,597,373	18,314,000				
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H26)の改善計画	外国語活動実施に伴い、ネイティブスピーカーによる指導を充実させる必要がある。	③取り組みの課題	さらに英語教育の推進を図るため、ネイティブスピーカーによる指導を充実させる。
②今年度(H26)に実施した取り組み	小学校英語指導員スーパーバイザーの配置日数を増加させた。	④今後の改善計画	コミュニケーション能力の素地を養うという観点から、小学校ALTの配置増を図る。